



薬の伝言板 感染性胃腸炎

No.272 2020年7月

丸子中央病院 薬局

感染性胃腸炎とは、細菌またはウイルスなどの感染性病原体が原因となって起きる突然の嘔吐・下痢・腹痛を主症状とする感染症です。



■ 感染性胃腸炎の原因

細菌・ウイルス・原虫・寄生虫・真菌など様々な微生物が原因となります。細菌による細菌性腸炎とウイルスによるウイルス性胃腸炎が大半を占めます。

■ 原因微生物とその特徴

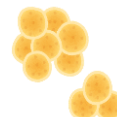
① 黄色ブドウ球菌

原因・特徴：人の皮膚に常在する菌で、調理する人の手・包丁・まな板などから食品に付着し感染します。菌が産生するエンテロトキシン（毒素）が症状を引き起こし、その毒素は熱に強いいため加熱しても発症する場合があります。

主な症状は強い上腹部痛と嘔吐です。

潜伏期間：原因食物が胃に到達してから数時間以内に発症します。

治療：基本的に抗菌薬は不要で補液（点滴など）で速やかに回復します。



② 腸炎ピブリオ

原因・特徴：刺身や貝などから感染し、好発時期は海水温が上昇する6～9月。低温に弱いため冷蔵保存が効果的ですが、室温に放置すると増殖します。主な症状は強い腹痛・下痢・嘔吐・発熱です。

潜伏期間：小腸が感染部位で、食後12時間程度で発症します。

治療：抗菌薬は必ずしも必要ではなく、補液などの対症療法で回復します。症状によりキノロン系薬やホスホマイシン（ホスミン）を用いることもあります。



③ サルモネラ

原因・特徴：トリ・ウシ・ブタの腸内細菌で、汚染された食肉、生卵などから感染します。好発時期は夏で、発熱を伴う頻度が高いです。

潜伏期間：摂食後8時間～2日程度と幅があります。

治療：補液などの対症療法のみで回復しますが、回復後も1ヶ月以上便中に排菌されるので注意が必要です。



④ カンピロバクター

原因・特徴：細菌性感染性胃腸炎で最も多い原因菌です。

トリ・ウシ・ブタの腸管由来菌で、加熱不足の鶏肉やウシの生レバーなどから感染します。低温に弱いため冷蔵保存が効果的です。

症状は腹痛が最も多いです。

潜伏期間：2～5日。生肉摂取の有無を1週間程度さかのぼる必要があります。

治療：マクロライド系抗菌薬

※本症に続発してギランバレー症候群を起こす可能性があります。



⑤ 病原性大腸菌

原因・特徴：ウシの腸内に存在する菌で、主な症状としては激しい腹痛と頻回の下痢、血便も見られることが多いです。

潜伏期間：3～4日

治療：抗菌薬の使用は溶血性尿毒症症候群（HUS）の誘因になることが示唆されており基本的には使用しません。ホスホマイシン（ホスミシン）についてはHUS発症率が低かったという報告もあります。

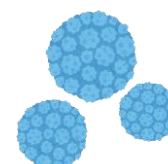


⑥ ノロウイルス

原因・特徴：ノロウイルスに感染した人の便や嘔吐物中のウイルスが手に付着し、ウイルスに汚染された手で調理した食品を食べて感染します。好発時期は冬。嘔吐・下痢・腹痛などが現れる。加熱により死滅しますが、アルコールでは消毒できないため次亜塩素酸による消毒と手洗いが大切。

潜伏期間：1～2日

治療：抗菌薬は無効。補液など対症療法により数日で回復します



■ 治療

感染性胃腸炎では多くが対症療法、下痢と下痢による脱水症状への補液（点滴）で対応します。下痢止めは病原性微生物を体内にとどめることになるため基本的には使用せず、腸内環境を整える整腸剤などを用いて様子を見ます。原因菌によって抗菌薬使用の判断も異なるため、自己判断で薬を服用するのは危険です。

また、過敏性腸症候群、潰瘍性大腸炎、クローン病などの非感染性疾患や薬剤性の下痢など、他の疾患の可能性もあるため、診察を受けて適切な治療を受けるようにしましょう。

